

| | | | | | | | |
|--|-----------------------|----------|----|-------------|---------|------|----|
| 科目名 (英) | 生理学 I Physiology I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | |
| 学科・コース | 鍼灸科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 | 後期 |
| 【授業の学習内容】 | | | | | | | |
| <p>生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系を理解する上で必須となる科目である。生理学 I では人体植物性機能である物質の消化及び吸収や心臓、循環の調節機能、呼吸調節機能、腎臓における排泄機能、体温調節機能等様々な調節機能について学習する。また、各調節機能に密接に関わる内分泌系調節(ホルモン調節)についても学習する。</p> | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | |
| <p>①心臓機能・循環機能の調節について理解する。 ②呼吸調節について理解する。 ③消化吸収、排泄について理解する。 ④体温調節機能について理解する。 ⑤内分泌調節について理解する。⑥上述の機能の一連の関係性について説明できる。</p> | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|--|--|
| 1回目 | 第4章 消化と吸収 消化管の運動について説明ができる |
| 2回目 | 第4章 消化と吸収 消化液について説明ができる |
| 3回目 | 第4章 消化と吸収 吸収、消化管ホルモンについて説明ができる |
| 4回目 | 第4章 消化と吸収 排便、肝臓の働き、摂食調節について説明ができる |
| 5回目 | 第4章 消化と吸収 排便、肝臓の働き、摂食調節について説明ができる |
| 6回目 | 第6章 体温1 体温調節、体熱の産生と放散について説明ができる |
| 7回目 | 第6章 体温2 発汗とその調節について説明ができる |
| 8回目 | 第8章 内分泌1 ホルモンの一般的特徴、作用機序について説明ができる |
| 9回目 | 第8章 内分泌2 ホルモンの一般的特徴、作用機序について説明ができる |
| 10回目 | 第8章 内分泌1 各内分泌腺の働きについて説明ができる |
| 11回目 | 第8章 内分泌2 各内分泌腺の働きについて説明ができる |
| 12回目 | 第9章 生殖・成長と老化1 生殖・成長と老化について説明ができる |
| 13回目 | 第9章 生殖・成長と老化2 生殖・成長と老化について説明ができる |
| 14回目 | 中間試験 |
| 15回目 | 中間試験問題の解答解説 |
| 準備学習 時間外学 習 | <p>事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること</p> <p>時間外学習 2年次、3年次の臨床系科目の基礎となるため必ず、講義の復習が必要になります。</p> |
| 評価方法 | <p>成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。</p> <p>『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。</p> |
| 受講生への メッセージ | |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | |
| <p>数研出版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 生理学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能、</p> | |

| | | | | | | | |
|---|-----------------------|----------|----|-------------|---------|------|----|
| 科目名 (英) | 生理学 I Physiology I | 必修 選択 | 必修 | 年次 | 1年次 | 担当教員 | |
| 学科・コース | 鍼灸科 | 授業 形態 | 講義 | 総時間 (単位) | 60 2 | 開講区分 | 後期 |
| 【授業の学習内容】 | | | | | | | |
| 生理学は人体の諸器官の機能に関する科目であり、解剖学と合わせて臨床医学系を理解する上で必須となる科目である。生理学 I では人体植物性機能である物質の消化及び吸収や心臓、循環の調節機能、呼吸調節機能、腎臓における排泄機能、体温調節機能等様々な調節機能について学習する。また、各調節機能に密接に関わる内分泌系調節(ホルモン調節)についても学習する。 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | |
| ①心臓機能・循環機能の調節について理解する。 ②呼吸調節について理解する。 ③消化吸収、排泄について理解する。 ④体温調節機能について理解する。 ⑤内分泌調節について理解する。⑥上述の機能の一連の関係性について説明できる。 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|--|---|
| 16回 | 第2章 循環 (心血管系)について説明ができる |
| 17回 | 第2章 循環 (心臓の構造と働き)について説明ができる |
| 18回 | 第2章 循環 (血液循環・心血管系)について説明ができる |
| 19回 | 第2章 循環 (循環調節・リンパ系)について説明ができる |
| 20回 | 第3章 呼吸 (呼吸器)について説明ができる |
| 21回 | 第3章 呼吸 (換気とガス交換)について説明ができる |
| 22回 | 第3章 呼吸 (呼吸運動)について説明ができる |
| 23回 | 第3章 呼吸 (呼吸調節)について説明ができる |
| 24回 | 第7章 排泄 (腎臓の働き)について説明ができる |
| 25回 | 第7章 排泄 (腎循環・尿生成)について説明ができる |
| 26回 | 第7章 排泄 (腎臓と体液調節)について説明ができる |
| 27回 | 第7章 排泄 (畜尿と排尿)について説明ができる |
| 28回 | 第15章 身体行動の協調 (生体の適応)について説明ができる |
| 29回 | 第15章 身体の協調 (恒常性の維持、バイオリズム)について説明ができる |
| 30回 | 第15章 身体の協調 (恒常性の維持、バイオリズム)について説明ができる |
| 準備学習 時間外学 習 | 事前準備 授業開始前に教科書該当する項目を熟読すること 時間外学習 2年次、3年次の臨床系科目の基礎となるため必ず、講義の復習が必要になります。 |
| 評価方法 | 成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。 |
| 受講生への メッセージ | 臨床系科目の基礎になる科目であるため、単純に理解ではなく説明できる程度にしましょう。 |
| 【使用教科書・教材・参考書】 | |
| 数研出版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 生理学 | |